

1

婦人科疾患とピクノジェノール
—子宮内膜症を中心に—

小濱 隆文 (恵寿総合病院)

フランス海岸松樹皮抽出物=PINE BARK
EXTRACTSとは、フランスのポルドー地方の海岸
に生息する学者：PINUS PINASTERとい
う松の樹皮からの抽出物である(U.S.PATENT 3436407)。

ピクノジェノール(スイスのホーファー・リサーチ
社の登録商標、いわゆる商品名)として、現在では世界
中において広く栄養補助食品として使用されている。

フランス海岸松樹皮抽出物は、OPC(オリゴメリッ
ク プロアントシアニジン)を主体とした約40種類
の有機酸を含む生体フラボノイド複合体で、その薬理
機序として、

- 1) 強力な抗酸化作用 (Blazso, G. Gabor, M., Sibbel,
R. and Rohdewald, P. Pharm, Pharmacol. Lett., 3: 217-220,
1994)
- 2) 抗炎症作用 (同上)
- 3) 末梢血管拡張作用 (Fitzpatrick, D. F., Bing, B. and
Rohdewald, P. Jour. Cardiovasc. Pharmacol., 32: 509-515,
1998)
- 4) 血小板凝集阻止能 (U. S. PATENT 4698360)
- 5) 末梢血管抵抗減弱作用 (Gabor, M. Engi, E. and
Sonkodi, S. Phlebologie, 22: 178-182, 1993)
- 6) 結合組織の補強作用 (Tixier, J. M., Godoau, G.,
Robert, A. M. and Hornebeck, W. Bichemical Pharmacology,
33: 3933-3939, 1984)
- 7) ビタミンCの生体内作用に対する増強作用
(Cossins, E., Lee, R. and Packer, L. Biochem Mol, Biol.
Int., 45 (3) : 583-597. 1998) が挙げられる。

また、フランス海岸松樹皮抽出物のもつ薬理効果は多
彩で、

- 1) 老人の脳血流障害の改善 (Cahn and M.G. Borzeix,
Sem. Hop, Paris, 1983, 59, No.27-28, 2031-2034)
- 2) 動脈硬化症による末梢血流障害の改善
- 3) 血栓予防 (U. S. PATENT No.5720956)
- 4) ADHD (注意欠陥多動障害=いわゆる、落ち着
きのない子、多動児)への改善・治療効果 (U. S.
PATENT 5719178)
- 5) 糖尿病性網膜症(フランスでは、医薬品として
認可)
- 6) 美肌効果
- 7) 鎮痛作用
- 8) 不眠の改善・治療
- 9) こむら返りの治療
- 10) 慢性疲労症候群：CFS (chronic fatigue
syndrome)の改善・治療
- 11) その他：足のむくみ、静脈瘤 花粉症や喘
息等のアレルギー性疾患、眼精疲労、糖尿病、インフ

ルエンザ、ガンの予防

といったような疾患の改善・治療効果が報告されてい
る。

また、安全性についても、過去30年間に渡る、フラ
ンス、イギリス、アメリカ、ドイツ、イタリアーなどの
研究者によって、フランス海岸松樹皮抽出物の安全性
は確認されている。

このような背景を踏まえ、我々は、様々な疾患に対し、
フランス海岸松樹皮抽出物を投与し、その改善・治療
効果を検討したところ、月経困難症、子宮内膜症、肩
関節周囲炎(五十肩)、椎間板ヘルニアに対し、これ
までの薬物療法にない、極めて良好な症状改善及び治
療効果が認められた。

特に、婦人科疾患において、近年急増している子宮内
膜症について以下説明する。

子宮内膜症とは：

子宮内膜が子宮内腔以外の場所(卵巣、卵管、ダグラス
か)に発生・増殖し、その場所に炎症が生じること
により、激しい月経痛、月経時以外の下腹部痛、腰痛
などの症状を認める。まだ、不妊症の原因の一つに
数えられている。原因は、不明であるが、近年ダイ
オキシンの関連性が注目されている。確定診断は、
腹腔鏡、あるいは開腹による病巣部の組織診断がも
っとも確実である。ただ、ある程度病巣部が広がっ
ている場合には、腫瘍マーカーの一つである血清CA-125
が上昇するため、外来レベルでは、血清CA-125の有意
な上昇をもって子宮内膜症の確定診断とし、CA-125の
上昇・下降をもって、病変の進行・改善の指標とする
場合が多い。

本疾患は、生殖可能年齢(18歳から42歳ごろまで)
に圧倒的に多く、卵胞ホルモン(エストロゲン)依存
性であるため、月経を有する年齢では徐々に増悪して
ゆき、逆に閉経後はエストロゲンの減少とともに、退
縮・消失していく。治療は、卵巣からのエストロゲ
ン分泌を抑制させ、病変部を退縮させるGn-RH療法が
もっとも多く用いられ、続いて男性ホルモン(テスト
ステロン)の誘導体であるダナゾールを用い、病巣の
エストロゲン作用を抑えるダナゾール療法等が行われ
ている。しかしながら、これらの治療は、ほてり、
全身倦怠感といった卵巣欠落症状、骨粗鬆症、浮腫、
肥満、といった副作用が高頻度に出現し、さらに、4
0歳までの女性の場合では、治療終了後3ヶ月から半
年で80%以上が、内膜症の再発を認め、優れた治療
法とは言い難い。

以上のような子宮内膜症に対し、女性のホルモンバラ
ンスを維持しつつ副作用もなく、疼痛・月経痛を改善
しCA-125を低下させるといった、従来の治療にはみ
られないピクノジェノールの効能を示唆する症例を多く
経験したため、多くの婦人科疾患と合わせここに発表す
る。